

KONAN UNIVERSITY

安西敏三教授年譜

雑誌名	甲南法学
巻	57
号	3・4
発行年	2017-03-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1260/00002277/

安西敏三教授年譜

略 歴

〔経歴〕

- 一九四八（昭和二三） 年一月一二日、愛知県犬山市に生れる
- 一九六七（昭和四二） 年三月、愛知県立名古屋西高等学校卒業
- 一九六八（昭和四三） 年四月、学習院大学法学部政治学科入学
- 一九七二（昭和四七） 年三月、同卒業
- 一九七二（昭和四七） 年四月、株式会社廣川書店入社
- 一九七三（昭和四八） 年二月、同退社
- 一九七三（昭和四八） 年四月、慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程入学
- 一九七五（昭和五〇） 年三月、同修了（法学修士）
- 一九七五（昭和五〇） 年四月、慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程入学
- 一九七九（昭和五四） 年三月、同修了（所定単位修得）
- 一九七九（昭和五四） 年四月、日本学術振興会奨励研究員採用
- 一九八〇（昭和五五） 年三月、同満期修了
- 一九八〇（昭和五五） 年四月、慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程研究生
- 一九八二（昭和五七） 年三月、同修了
- 一九八二（昭和五七） 年四月、甲南大学法学部助教授就任（政治思想史担当）

一九八五（昭和六〇）年七月より九月までの三か月間、私学研修福祉会在外研究補助費により、スタンフォード、ワシントン州立、シカゴ、コーネル、ハーバード、ブラウン、オックスフォード、ヨーク、チュービンゲンなどの各大学にて調査研究

一九八六（昭和六二）年四月、甲南大学法学部教授就任（政治思想史、後日本政治思想史、日本政治史担当）
一九九〇（平成二二）年四月より翌三月までの一年間、甲南大学国内研究員規定第四条により慶應義塾大学法学部にて国内研究

一九九四（平成六）年五月より三年間、甲南大学生生活協同組合理事

一九九七（平成九）年三月、慶應義塾大学より博士（法学）授与

一九九七（平成九）年九月より翌年八月までの一年間、甲南大学在外研究規定第六条により、オックスフォード

聖アントニーズ学寮^{シニアフェロウシップ}準上席研究員、同大学日産日本研究所訪問研究員となり在外研究

二〇〇〇（平成一二）年四月より一年間、甲南大学法学部法学科主任

二〇〇〇（平成一二）年四月より一年間、甲南大学広域副専攻センター長

二〇〇一（平成一三）年四月より一年間、甲南大学法学部長・甲南学園理事・同評議員

二〇〇一（平成一三）年四月より一年間、甲南大学大学院社会科学部研究科法学専攻主任

二〇〇二（平成一四）年四月より四年間、甲南大学総合研究所長

二〇〇三（平成一五）年四月より一年間、甲南大学法学科主任

年 二〇〇三（平成一五）年五月より二年間、甲南大学生生活協同組合理事

譜

二〇〇五（平成一七）年五月より現在、甲南大学生活協同組合理事長

二〇〇六（平成一八）年四月より現在、慶應義塾福澤研究センター客員所員

二〇〇八（平成二〇）年四月より二年間、甲南大学総合研究所長

その他、神戸商船大学教養部（政治学）、神戸市外国語大学外国語学部（社会思想史）、京都大学法学部（日本政治思想史）にて非常勤講師を勤める。

また以下の学内委員を務めた。

カウンセリングセンター運営評議会、学園史資料室委員、学生相談室委員会、学生部委員、学長候補者選挙管理委員会、学長辞任請求管理委員会、管理運営関係実施委員会、キャリアセンター委員会、教育学習支援センター運営委員会、教育職員養成課程カリキュラム委員会、教職課程委員会、教務部委員、組換えDNA実験安全委員会、言語教育アドバイザリ・コミッティ、研究・教育交流委員会、広域副専攻センター協議会、広域副専攻全学検討委員会、広域副専攻センター運営委員会、広域副専攻センター協議会、広域副専攻センター代表専門委員、公開講座委員会、合同教授会、甲南学園80年史編集委員会、甲南学園広報編集委員会、甲南学園平生鈆三郎研究会、甲南大学と甲南高等学校・中学校との協議会、甲南大学と甲南高等学校・中学校との連絡協議会、甲南大学とトゥレーヌ甲南学園高等部との協議会、甲南大学とフランス甲南学園トゥレーヌ高等部との連絡協議会、国際交流助成運営委員会、国際交流センター協議会、サイバーライブラリー運営委員会、サイバーライブラリー協議会、自己点検・評価運営委員会、自己点検評価・管理運営関係実施委員会、自己点検・評価教育活動実施委員会、省エネルギー・省資源委員会、情報教育センター運営委員会、情報教育センター協議会、職業指導委員、新5号館（3階等）学習情報環境整備委員会、人権問題委員会、全学共通科目連絡会、総合研究所委員会、大学院委員

会、大学院社会科学研究科委員会、大学会議員、大学教育検討委員会、大学自己評価・自己点検制度準備委員会、大学自己評価委員会、長期計画推進委員会、図書館商議員、日本育英会甲南大学委員部、ハイテク・リサーチ・センター協議会、平生鈺三郎日記編集委員会、法科大学院（ロースクール）設置委員会、法科大学院（ロースクール）設置準備委員会、法学部法学科図書管理委員、補導協議委員会、Inter-Faculty Program 設立委員会、5号館建設委員会

その他、甲南大学体育会空手道部、同ラグビー・フットボール部顧問、学外委員としては日本政治学会文献委員（二〇〇四年度、二〇一一年度）、同書評委員（二〇一四年度）などを務めた。

〔賞罰〕

一九九一（平成三）年三月、平成二年度第八回村尾育英会学術賞受賞
二〇〇二（平成一四）年四月、永年勤務による表彰（二〇年表彰）

〔所属学会〕

日本政治学会、社会思想史学会、日本イギリス哲学会、政治思想学会、慶應法学会、福澤諭吉協会

主要業績 譜

〔単著〕

年 福沢諭吉と西欧思想―自然法・功利主義・進化論―、名古屋大学出版会、一九九五年三月

福澤諭吉と自由主義―個人・自治・国体―、慶應義塾大学出版会、二〇〇七年五月

〔共著（編著、共編著を含む）〕

平生鈺三郎の日記に関する基礎的研究、甲南大学総合研究所、一九八六年三月

平生鈺三郎の総合的研究、甲南大学総合研究所、一九八九年三月

戦後日本の社会文化、甲南大学総合研究所、一九九〇年、三月

平生鈺三郎とその時代、甲南大学総合研究所、一九九一年三月

甲南大学法学部30年の歩み、甲南大学法学部、一九九一年三月

近代イギリスの比較文化史的研究、甲南大学総合研究所、一九九一年三月

近代日本の意味を問う、木鐸社、一九九二年三月

19世紀イギリスの思想・文化・社会、甲南大学総合研究所、一九九三年三月

平生鈺三郎の人と思想、甲南大学総合研究所、一九九三年三月

法学・政治学への道しるべ、甲南大学法学部、一九九五年四月

近代日本とイギリス思想、日本経済評論社、一九九五年一二月

復興の政治経済学、甲南大学阪神大震災調査委員会、一九九七年三月

近代イギリスの思想と文学、甲南大学総合研究所、一九九七年三月

近代国家の再検討、慶應義塾大学出版会、一九九八年一〇月

平生鈺三郎―人と思想―、甲南学園、一九九九年一月

- ヴィクトリア朝の社会と文化、甲南大学総合研究所、二〇〇〇年三月
- ヴィクトリア朝イギリスの諸問題、甲南大学総合研究所、二〇〇二年三月
- 福澤諭吉の法思想―視座・実践・影響―、慶應義塾大学出版会、二〇〇二年八月
- 平生鈺三郎―人と思想―Ⅱ、甲南学園、二〇〇三年三月
- マックス・ヴェーバーにおける「民族」問題とその周辺、甲南大学総合研究所、二〇〇五年三月
- イギリスと日本、甲南大学総合研究所、二〇〇五年三月
- 新平生鈺三郎のことば、甲南学園、二〇〇五年三月
- ヴィクトリア朝英国と東アジア、思文閣出版、二〇〇六年四月
- 現場としての政治学、日本経済評論社、二〇〇七年三月
- 明治日本とイギリス、甲南大学総合研究所、二〇〇八年一月
- 慶應の政治学―政治思想―、慶應義塾大学法学部、二〇〇八年二月
- 道徳哲学の現在―社会と倫理―、甲南大学総合研究所、二〇〇九年三月
- 故伊藤正雄教授文書の整理と研究、甲南大学総合研究所、二〇〇九年二月
- ナショナリズムの時代精神、萌書房、二〇〇九年十一月
- 甲南大学法学部50年の歩み、甲南大学法学部、二〇一一年三月
- 平生鈺三郎におけるイギリス的伝統、甲南大学総合研究所、二〇一三年三月
- 法学部創立50周年記念エッセイ集、学習院大学法学会、二〇一四年十一月
- 現代日本と平生鈺三郎、晃洋書房、二〇一五年三月

岡本わが町―岡本からの文化発信―、神戸新聞総合出版センター、二〇一五年四月
知的公共圏の復権の試み、行路社、二〇一六年九月

〔学術論文〕

幕末維新期における儒教思想への理解と西欧近代思想との関連―近代化と西欧化―、慶應義塾大学大学院法学研究科論文集〔政治編〕昭和四十九年度、一九七五年三月

明治啓蒙期における国民形成の思想―西欧国家概念の摂取と展開―、慶應義塾大学大学院法学研究科論文集、昭和五十一年度、一九七七年三月

福沢諭吉とJ・S・ミル『女性の隷従』、福澤諭吉年鑑6、一九七八年一月

福沢諭吉における認識の問題―文体・倫理・学問・歴史―、慶應義塾大学大学院法学研究科論文集、昭和五十三年度、一九七九年三月

福沢諭吉とA・D・トクヴィル『アメリカにおけるデモクラシー』序説、福澤諭吉年鑑6、一九七九年一〇月

福沢諭吉における西欧政治思想の摂取とその展開とに関する一考察―普遍的人權の原理を中心に―、法学研究、第五十三巻第二号、一九八〇年二月

福沢諭吉の学問観―ミル、バッケル、スペンサーの諸著作へのノートを中心に―、三田学会雑誌、第七十五巻第三号、一九八二年六月

福沢諭吉における政治原理の構造と展開―「西欧近代思想」導入との関連―（一）、甲南法学、第二十三巻第三・四巻合併号、一九八三年三月

福沢諭吉における政治原理の構造と展開——「西欧近代思想」導入との関連——（二）、甲南法学、第二十四卷第二号、

一九八四年三月

福沢諭吉における政治原理の構造と展開——「西欧近代思想」導入との関連——（三）、甲南法学、第二十六卷第一号、

一九八五年八月

福沢諭吉とW・ブラックストン『イングリランド法釈義』——『西洋事情』第二編における導入にまつわる若干の間

題——、近代日本研究、第二卷、一九八六年三月

平生鈺三郎、その教育理念に関する一考察、甲南法学、第二十五卷第二号、一九八六年三月

福沢諭吉における政治原理の構造と展開——「西欧近代思想」導入との関連——（四）、甲南法学、第二十八卷第二号、

一九八七年一〇月

政治家としての平生鈺三郎（一）、甲南法学、第二十八卷第三号、一九八八年三月

政治家としての平生鈺三郎（二）、甲南法学、第二十九卷第二号、一九八九年一月

福沢諭吉における政治原理の構造と展開——「西欧近代思想」導入との関連——（五）、甲南法学、第三十卷第二号、

一九九〇年一月

戦後政治小考——一つの吉田茂論——、甲南法学、第三十卷第三・四合併号、一九九〇年三月

福沢諭吉とJ・S・ミル『功利主義』、甲南法学、第三十一卷第一号、一九九〇年一〇月

平生鈺三郎と生の目的——『自叙伝』解説——、甲南法学、第三十一卷第三・四合併号、一九九一年三月

福沢諭吉における政治原理の構造と展開——「西欧近代思想」導入との関連——（六）、甲南法学、第三十二卷第一・

二合併号、一九九二年三月

年 譜

平生鈆三郎における生と目的、その二―続『自叙伝』解説―、甲南法学、第三十四卷第一号、一九九三年、九月
福沢におけるスペンサー問題―H.Spencer, *The Study of Sociology*, 1874 及び *First Principles of A New System of Philosophy*, 2nd ed. 1875との対話―(一)―、甲南法学、第三十四卷第二号、一九九三年、十一月

福沢におけるスペンサー問題―H.Spencer, *The Study of Sociology*, 1874 及び *First Principles of A New System of Philosophy*, 2nd ed. 1875との対話―(二)―、甲南法学、第三十四卷第三・四号合併号、一九九四年三月
福沢論吉とH・スペンサー『第一原理』―第二部第一・二・三章を読む―、法学研究、第六十七卷第十二号、一九九四年十二月

福沢論吉とF・P・G・ギゾー、それにJ・S・ミル―「独一個人の気象」考―、法学研究、第七十卷第二号、一九九七年二月

The Law of Nature, Utilitarianism and The Evolution Theory in Modern Japan — A Case Study of Yukichi Fukuzawa、甲南法学、第三十七卷第三号、一九九七年四月

福沢論吉における国体観念の転回、近代日本研究、第十五卷、一九九九年三月

福澤論吉と私立教育、関西教授会連合、105・106号、二〇〇一年、十一月

『西洋事情』における「文明」と「進歩」―福沢論吉の歴史哲学序説―、法学研究、第七十六卷第十二号、二〇〇三年、十二月

福沢におけるトクヴィル問題―西南戦争と『アメリカのデモクラシー』、近代日本研究、第二十二卷、二〇〇六年三月

福沢論吉とA・d・トクヴィル『アメリカのデモクラシー』(一)、甲南法学、第四十七卷第二号、二〇〇六年一

一月

福澤諭吉とA・d・トクヴィル『アメリカのデモクラシー』（二）、甲南法学、第四十七卷、第三号、二〇〇七年

二月

近代日本思想史におけるバックル問題（一）、甲南法学、第四十八卷第一号、二〇〇七年二月

近代日本思想史におけるバックル問題（二）、甲南法学、第四十八卷第三号、二〇〇八年二月

福澤諭吉におけるナショナリズムの思想、甲南法学、第四十八卷第四号、二〇〇八年三月

福澤研究史における伊藤正雄、近代日本研究、第二十五卷、二〇〇八年十一月

『平生鈇三郎日記』にみる大正期一実業家の時代精神、法学研究、第八十四卷第二号、二〇一一年二月

考証 文明論之概略―緒言―、甲南法学、第五十一卷第三・四合併号、二〇一一年三月

「文明」と「条理」―『現代語訳 文明論之概略』『補注・解題』余禄―、福澤諭吉年鑑38、二〇一一年二月

平生鈇三郎と甲南教育―英国的教育の模索―、甲南法学、第五十三卷第四号、二〇一三年三月

福澤諭吉における理想的人間類型に関する一考察―「万物之靈」・「自信自重」・「独立自尊」―、近代日本研究、

第三十卷、二〇一三年一二月

福澤諭吉における政治原理の構造と展開―「西欧近代思想」導入との関連―（七）、甲南法学、第五十四卷第三・

四合併号、二〇一四年三月

福澤諭吉における「実学思想」と政治―儒学・蘭学・洋学―、政治思想研究、第14号、二〇一四年五月

福澤諭吉における政治原理の構造と展開―「西欧近代」思想との関連―（八）、甲南法学第五十六卷第三・四号合

併号、二〇一六年三月

〔随筆〕
エッセイ

福沢とミル、三田評論八四三号、一九八四年一月

今なぜ福沢諭吉なのか！、法学会新聞、第17号、一九八五年一月

学生時代、学生部だより、No.98、一九八七年二月

文部大臣 平生飢三郎、学園だより、No.2、甲南大学父母の会会報、一九九〇年三月

ギゾー英訳者考、福澤手帖74、一九九二年九月

総合研究所における平生飢三郎研究、甲南大学総合研究所報、一九九四年六月

自著を語る 『福沢諭吉と西欧思想―自然法・功利主義・進化論―』名古屋大学出版会、一九九五年三月刊、甲南

大学図書館報藤棚、Vol.11, No.1、一九九五年四月

本の自画像 『福沢諭吉と西欧思想』、福澤手帖86、一九九五年九月

丸山真男と福沢諭吉と拙著、福澤手帖87、一九九五年十二月

「平生飢三郎自伝」を刊行して―読者のご教示書評に答える、学園だより、No.91、甲南大学父母の会会報、一九

九六年十二月

平生飢三郎先生（1866—1945）、無記名、KONAN EXPRESS Vol.6, No.1、一九九八年四月

「人天並立」の社会へ一歩前進、ビトウィーン臨時増刊号、一九九九年六月

德育問題、あるいは教養的知育の復権について、KONAN EXPRESS Vol.7, No.3、一九九九年十一月

自尊・道徳・文明、三田評論一〇三一号、二〇〇一年一月

「独一個人の気象」考―福澤・ギゾー・ミル―、福澤諭吉書簡集月報5、岩波書店、二〇〇一年一〇月

甲南大学と旧制高校、甲南学園史資料室年報2000・2001、二〇〇二年三月
献呈のことは、甲南法学、第四十二巻第三・四合併号、二〇〇二年三月

バックルの顔、福澤手帖15、二〇〇二年一月

二〇〇二年読書アンケート、福澤論吉年鑑29、二〇〇二年二月

二〇〇三年読書アンケート、福澤論吉年鑑30、二〇〇三年二月

自由にして個性を尊重し人物を作る、大学時報二九四号、二〇〇四年一月

論文要約「天稟の愛国心」と「推考の愛国心」―福沢諭吉におけるナショナリズム問題小考―、福澤論吉年鑑

32、二〇〇五年一月

御挨拶 祝辞、甲空会50周年記念誌、二〇〇八年二月

伊藤正雄文書―甲南大学日本語日本文学科所蔵―、福澤手帖137、二〇〇八年六月

歴史とはなにか、甲南大学広域副センター日より、創刊号、二〇〇八年一月

平生鈺三郎日記の刊行にあたって、無記名、案内文、甲南学園、平生鈺三郎日記編集委員会、二〇〇九年四月

平生鈺三郎日記の刊行にあたって、Konan Today, No.33、二〇〇九年五月

甲南を巣立った人々への想い、甲南学園史資料室年報2009、二〇一〇年三月

平生先生の厚い想い、甲南学園史資料室年報2010、二〇一一年三月

巻頭言、甲南法学、第五十一巻第三号、二〇一一年三月

『文明論之概略』を読む、無記名、慶應大阪リバーサイドキャンパス、慶應義塾福澤研究センター講座案内文、

二〇一一年九月

平生先生の人物論、甲南学園史資料室年報2011、二〇一二年三月

甲南教育への道程、甲南学園史資料室年報2012、二〇一三年三月

共働互助と甲南大学生協、甲南大学入学準備 Guide Book, 2016、二〇一六年二月

パブリック・モラリストとしての平生鈺三郎、『平生鈺三郎日記』第十三巻附録、甲南学園、二〇一六年六月

人類の星の時間を求めて、あるいは歴史における近因と遠因の研究、甲南学園広告（産経新聞大阪本社版朝刊）、

二〇一六年一〇月二三日

平生精神と武道、甲空会六〇周年記念誌、二〇一七年一月

〔書評〕

進藤咲子著『「文明論之概略」草稿の考察』を読む、福澤諭吉年鑑27、二〇〇〇年一二月

「人は万物の霊」―中村敏子『福沢諭吉 文明と社会構想』を読む、政治思想研究、第二号、二〇〇二年五月

二〇〇四年度学界展望 政治思想（日本・アジア）、年報政治学二〇〇四、二〇〇五年一月

金風珍著『東アジア「開明」知識人の思惟空間―鄭観応・福沢諭吉・愈吉濱の比較』、日本歴史、第六九四号、二〇〇六年三月

〇〇六年三月

西村稔『福澤諭吉 国家理性と文明の道徳』を読む、法制史研究57、二〇〇八年三月

松田宏一郎著『江戸の知識から明治の政治へ』、社会思想史研究34号、二〇一〇年九月

初期福澤研究の一指標―アルバート・クレイグ『文明と啓蒙 初期福澤諭吉の思想』を読む―、福澤諭吉年鑑37、

二〇一〇年一二月

道理の政治思想、政治思想研究、第12号、二〇一二年五月

二〇一一年度学界展望 政治思想（日本・アジア）、年報政治学二〇一二―II、二〇一二年一二月

二〇一四年度書評 政治思想史（日本・アジア）、年報政治学二〇一五―I、二〇一五年六月

〔事典項目〕

三浦梅園、無記名、大学教育社編『現代政治学事典』、ブレーン出版、一九九二年、四月

安西敏三『福沢諭吉と西欧思想』名古屋大学出版会1995、黒田日出男、加藤友康、保谷徹、加藤陽子編『日

本文献事典』、弘文堂、二〇〇三年

バックル、ヘンリー・トーマス (Buckle, Henry Thomas)、日本イギリス哲学会編『イギリス哲学・思想事典』

研究社、二〇〇七年一月

覚書、英書手沢本、福沢諭吉事典編集委員会編『福澤諭吉事典』、慶應義塾、二〇一〇年一二月

〔対談・座談会・手引〕

人間 平生鈇三郎を語る 第一回、平生鈇三郎の総合的研究会、一九八七年七月

人間 平生鈇三郎を語る 第二回、平生鈇三郎の総合的研究会、一九八八年九月

I think, I say. 学問とは世上に実なき文学を言うにあらず、読売新聞大阪本社版、一九九三年二月二三日朝刊

日本と西洋の関わりを福沢諭吉を軸に探り出す、Konan in Kobe、一九九七年四月

年 平生鈇三郎ってどんな人―その人と思想、甲南大学総合研究所報第26号、一九九八年一月

TOP INTERVIEW 建学の理念を今日に生かし、都市型新キャンパスで「人物教育」を実践 Campus Life, Vol.10
二〇〇七年三月

〔学会・研究会報告〕

福沢諭吉の学問観—ミル、バックル、スペンサーへの着眼—、日本イギリス哲学会、一九八一年三月

福沢諭吉に於けるイギリス思想の受容—「私権」・「国体」・「文明」—、日本イギリス哲学会、一九八五年三月
明治期に於ける学問と知識人—イギリス思想導入との関連において—、近代イギリスの比較文化史的研究会、一
九八八年六月

日本思想史に於けるウェーバー問題、戦後日本の社会文化研究会、一九八八年一〇月

初期資本主義と懷徳堂の思想、戦後日本の社会文化研究会、一九八九年四月

福沢諭吉と J・S・ミル、*Utilitarianism* (Fifth Edition, London: Longman, 1874) —手沢本を通じて—、近代イ
ギリスの比較文化史的研究会、一九八九年七月

大学審議会教育部会「審議の概要（その2）」における論点と問題点、全学共通科目連絡会、一九九一年一月

福沢諭吉における文明開化—バックル、ミル、スペンサーとの関連—、一九世紀イギリス思想・文化・社会研究会、一
九九一年七月

ギゾー文明史の読まれ方—英・米・独・日との比較に於ける—、一九世紀イギリスの思想・文化・社会研究会、一
九九二年六月

奢侈消費小考、日本の経済と企業文化研究会、一九九三年

近代イギリスの大衆社会論と日本、近代イギリスの都市文化研究会、一九九三年一〇月

福澤諭吉におけるスペンサー問題、近代イギリスの都市文化研究会、一九九四年四月

インディヴィデュアリチーについて―福澤とギゾー、それにミル、近代イギリスの思想と文学研究会、一九九六年七月

福澤に於ける「国体」の批判と修正、ヴィクトリア朝の社会と文化研究会、一九九七年七月

福澤諭吉とF.P.G. Guizot、そしてJ.S. Mill―「中華」・“Civilization”・「文明」―、ヴィクトリア朝の社会と文化研究会、一九九八年一二月

福澤諭吉と私立教育、関西教授会連合関西連絡協議会、二〇〇〇年七月

丸山眞男における福澤諭吉、丸山眞男を読む会、二〇〇〇年九月

日本における「進歩」の観念の導入と展開―維新时期から憲法体制確立期を中心に―、日本イギリス哲学会、二〇〇三年三月

福澤諭吉の歴史哲学―一九世紀イギリス歴史思想との関連、イギリスと日本研究会、二〇〇三年六月

ギゾー『ヨーロッパ文明史』をめぐるイギリスと日本、イギリスと日本研究会、二〇〇四年六月

福澤諭吉と明治憲法体制、戦後民主主義研究会、二〇〇四年六月

平生鈇三郎の国際政治観、甲南学園平生鈇三郎研究会、二〇〇四年七月

明治憲法制定期に於けるW・パジョット『英国憲政論』、明治日本とイギリス研究会、二〇〇五年一二月

福沢におけるトクヴィル問題―西南戦争と『アメリカのデモクラシー』、関西政治思想講書会、二〇〇五年一月

福沢におけるトクヴィル問題―西南戦争と『アメリカのデモクラシー』、慶應義塾福澤研究センター、二〇〇五年

一二月

大正二（一九一三）年十月七日～大正三（一九一四）年十一月二五日の平生鈇三郎（四八～四九歳）、甲南学園平

生鈇三郎研究会、二〇〇六年三月

「武士道」の現在、道徳哲学の現在研究会、二〇〇六年六月

福沢におけるバックル問題、明治日本とイギリス研究会、二〇〇六年七月

書評『西周と日本の近代』、成蹊大学思想史研究会、二〇〇六年九月

大正四（一九一五）年二月一六日～大正五（一九一六）年三月三十一日の平生鈇三郎（五〇～五一歳）、甲南学園

平生鈇三郎研究会、二〇〇七年七月

福澤諭吉『文明論之概略』再読、現代政治研究会、二〇一〇年七月

『文明論之概略』を読む、福澤諭吉協会、二〇一一年二月

平生鈇三郎における企業統治問題と甲南教育、国際犯罪学会、二〇一一年八月

『文明論之概略』を読む、慶應義塾福澤研究センター講座、二〇一一年九月～十二月

福澤諭吉と蘭学、関西政治思想講書会、二〇一四年十一月

〔討論〕

平生鈇三郎ってどんな人―その人と思想、甲南大学総合研究所、一九九八年一月

20世紀の幕開けと日本人の国際情勢認識、日本政治学会二〇一三年度研究大会、二〇一三年九月

〔講演〕

福沢諭吉、甲南大学春期公開講座、一九八四年五月

現代宰相論、甲南大学秋期公開講座、一九八九年二月

福澤諭吉における国際理解―ある開国経験の思想史として―、あこう市市民大学講座、一九九三年三月

福沢諭吉の見たイギリス、甲南大学夏期公開講座、一九九四年七月

地方自治における住民意識の変化、鳥取県自治研修所、一九九七年五月

平生鈺三郎の教育理念と経済思想、東京甲友会、一九九九年五月

若者にかけた大正時代、甲南学園、二〇〇五年十一月

福澤諭吉―「独立自尊」の真実とは―、芦屋市市民講座、二〇〇七年九月

平生鈺三郎と大正自由教育、東京甲南会、二〇〇八年二・三月

『平生鈺三郎日記』刊行にあたって、東京甲南会旧制部会、二〇〇九年十一月

平生鈺三郎の教育理念、学長懇談会、二〇〇九年二月

日本思想史研究における福本和夫（北栄町出身）―『日本ルネッサン史論』を中心に―北栄町図書館、二〇一四年

年三月

平生鈺三郎と甲南教育、甲南小学校、二〇一六年一月

パブリック・モラリストとしての平生鈺三郎、甲南学園、二〇一六年六月

平生鈺三郎と甲南学園、甲南大学春期公開講座、二〇一六年六月

〔資料紹介(単)〕

福沢手沢本 *Ad. Tocqueville, Democracy in America*, Transl. By Henry. Reeves 再現、法学研究、第五十四卷第一号、一九八一年一月

福沢手沢本 *Ad. Tocqueville, Democracy in America*, Tr. By H. Reeve 再現、福澤論古年鑑9、一九八二年二月

福沢手沢本 *J.S. Mill, Utilitarianism* 再現(一)、法学研究、第五十六卷第六号、一九八三年六月

福沢手沢本 *J.S. Mill, Utilitarianism* 再現(二)、法学研究、第五十六卷第七号、一九八三年七月

福沢手沢本 *J.S. Mill, Utilitarianism* 再現(三・完)、法学研究、第五十六卷第八号、一九八三年八月

平生鈺三郎『自叙伝』(一)、甲南法学、第二十七卷第三・四合併号、一九八七年三月

平生鈺三郎『自叙伝』(二)、甲南法学、第二十八卷第二号、一九八七年一〇月

平生鈺三郎『自叙伝』(三)、甲南法学、第二十八卷第三号、一九八八年二月

平生鈺三郎『自叙伝』(四)、甲南法学、第二十八卷第四号、一九八八年三月

平生鈺三郎『自叙伝』(五)、甲南法学、第二十九卷第一号、一九八八年六月

平生鈺三郎『自叙伝』(六)、甲南法学、第二十九卷第三・四合併号、一九八九年三月

平生鈺三郎『自叙伝』(七・完)、甲南法学、第三十卷第一号、一九八九年九月

平生鈺三郎論説論考集——『拾芳』第一号〜第十号より——、甲南法学、第三十七卷第四号、一九九七年四月

平生鈺三郎論説論考集——『拾芳』第十一号〜第二十三号より——、甲南法学、第三十九卷三・四合併号、一九九九年三月

〔資料紹介（共）〕

日本近代思想大系10 学問と知識人、岩波書店、一九八八年六月

〔解説・校訂・註〕

平生鈇三郎自伝、名古屋大学出版会、一九九六年三月

『平生鈇三郎日記』第一卷、甲南学園、二〇一〇年三月

福澤諭吉著・伊藤正雄訳『現代語訳 文明論之概略』、慶應義塾大学出版会、二〇一〇年九月

『平生鈇三郎日記』第二卷、甲南学園、二〇一〇年十二月

『平生鈇三郎日記』第三卷、甲南学園、二〇一一年七月

〔翻訳（共）〕

S・コールバーグ著『マックス・ヴェーバーの比較歴史社会学』、ミネルヴァ書房、一九九九年六月